

ソウル チョンゲチョン 清溪川 再生——歴史と環境都市への挑戦

著者：朴賛弼 出版社：鹿島出版会

都市の川を埋めて高架道路をつくる。これは50年前の日本では、輝かしい進化であり、成長であり、革新であった。それは、韓国でも同様であった。

しかし、ソウルでは、旧市街の中心部を貫く高架道路を撤去して川を復元する壮大なプロジェクトが今世紀はじめに提案され、世論の後押しを受けてあっという間に実現してしまった。ソウル市民は便利さを捨てて環境の回復を選択したわけだ。

高架道路の建設が20世紀を象徴する事業だったとするなら、川の復元は21世紀を象徴する事業である。それは、理屈としては理解できても、実際に行うことは至難の業である。日本でも日本橋をまたぐ首都高をなんとかしたいと多くの人が考えていても、あまりにも障害が多く、実現は困難を極めている。

では、なぜ韓国では実現できたのか、本書はその経緯を詳述している。

清溪川の歴史、文化、高架道路建設の経緯、その撤去のいきさつ、復元の目的、コンセプト、そして清溪川の見所を余すところなく描いている。とくに、興味深いのは、清溪川の周辺都市環境との関わりである。

もともとソウルは清溪川を中心として、その周辺に発達した都市であった。次第に人口が集中し、川は下水道と化し、氾濫を繰り返し、ついに覆蓋され、さらに高架道路が架けられてしまった。

しかし、市民は清溪川と共に生きてきた。その周辺に市場ができ、商業施設ができ、露天商が群がって、市民の経済と生活の場を形成してきた。特に1970年代、経済成長とともにビルが林立したが、いまやそれらが老朽化しソウルの都市発展の足かせになっていた。

清溪川再生は、こうしてソウル旧市街地の再開発の起爆剤としても必要な事業だったのである。つまり、清溪川再生は、単なる川の再生事業ではなく、ソウル旧市街地の都市再生プロジェクトでもあったのである。

市中に緑の少ないソウルにとって、見事に甦った清溪川にはいつも市民のにぎやかな声が響く憩いの空間になっており、市民たちの姿が絶えることがない。

これほど成功をおさめた都市再開発事業はめずらしい。著者は清溪川のそばで育ち、現在日本の大学

で教鞭をとっている韓国人研究者である。きめ細かな行き届いた解説は見事である。

本書は、全頁が写真と文章で構成されており、ていねいな地図も多く、その全貌が手に取るように理解できる。ガイドブックとしても便利な待望の一冊である。韓国語版も同時出版され（ソウル・技文堂刊）、日本民俗建築学会奨励賞が著者におくられた。

主要目次

- 第1章 清溪川の歴史と文化
- 第2章 清溪川の復元
- 第3章 再生の空間デザインと地域の魅力
3つのテーマの空間構成
周辺の市場・露店・地下商店街
- 第4章 エコシティへの潮流

出版社：鹿島出版会

定価3,360円（本体3,200円＋税）

A5判236頁

ISBN978-4-306-07293-0

